

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2015年産フランス産/オランダ産百合球根価格表送付にあたり

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

2015年産フランス産/オランダ産百合球根価格表を送付させていただきます。よろしくご確認ください。

**最初の2ページがフランス産。
3ページから19ページがオランダ産価格表となります。**

5月7日第1回発行分から、かなり内容が変わっております。ご確認ください。

今回も、1EURO=¥132.0/¥134.0/¥136.0の3本立て参考価格で提示とさせていただきます。

どうやら再び円安傾向を示すようですので、これまでに頂いた皆様のご注文分につきましては、6月中旬に、FOB価（当社仕入価）を確定し、『円価格固定作業』を進めていきたいと考えております
7月10日前後まで、¥132.0~¥136.0の範囲での対応は可能であろう、と考えています。

今週末からオランダに出張してまいります。
ここまでの当社受発注状況、及び球根市場流通状況を簡単にご報告いたします。

A. H/L. A百合

取引は早い動きとなっている。

黄色：黄色に多めの在庫を作った。国際的に不足感が解消されていない様子だから。

ピンク：ピンクに多めの在庫を作った。国際的に不足感が解消されていない様子だから。

白色：やや過剰感が出てきている様子。品種全般。従って在庫を少なめにしている。

赤色：やや過剰感が出てきている様子。特殊品種除く。従って在庫を少なめにしている。

ルビィ：全体的には、丁度良いくらいの量。但し、この花色は、濃い色から淡い色まで幅が大きい。各国の嗜好差の影響が大きく、どちらかという濃いで消費量が多く、淡めの消費量は少ない。

淡めのルビィ色を消費しているのは日本。

（他国では淡めのルビィ色をピンク色と表現しているとの事。どうやらその果肉の色から引用された表現らしい。）

15年産では、従来主力と言われた品種の他に、4品種も450,000球以上の取扱い数となる品種が出てきている。（Rトリエイ・インディアナ・イモントは勿論それ以上の流通球数。）

取引後半には、ルビィ色の品種の中で価格がだれるものが出てくるかもしれない。

***6月10日~6月15日くらいで、『当社試験栽培』A. H/L. Aが見頃を迎えます。**

既に流通している品種だけではなく、「隔離栽培」にて行っている試験栽培温室には、例年になくA. H/L. Aの試作が多い様です。

育種会社が大量の試作品を送ってきた様です。

皆様、覚えていますか？当社隔離栽培試験温室に、ケチャップ・ケバブというニックネームの品種が試験されておりました。何年前だと思えますか？それがやっと出てくるんです！

是非ご確認ください。

O. H. O. T 系

フランス産の取引は順調に進んでいます。

大変ありがとうございます。

作況確認・品質確認をしっかりと行っていきます。(既に圃場写真が送られてき始めました。当社HPにてご確認ください。)

南半球産同様、「価格の乱高下」は、起きない様です。

フランス産につきましては、既に14年産の段階で、「夏場用の安めの球根が無い！」を経験しておりました。(MAK・MAKTL・etc. の不足…。)

フランス産が免除になってくれたおかげで、飛躍的に選択肢が広がったように感じています。

紹介できるアイテムが増えてホッとしております。

安めの球根を買えれば、高めの球根を買える予算枠も広がります。

従って、比較的切花販売価格が安めの産地の方々が、従来手を出さなかった価格帯の球根/品種を使い始めるようです。

良い傾向だと思います。

『14年産での品種・球根確保の難しさを経験した産地は、たくましさが出てきた。』

試験栽培を見に来てください。

大変長いこと待たされましたが、酷暑期用高性種、白/ピンクO.H系が見つかりそうです。

ご自身の目でご確認ください。(さあ~どうやって増やしてもらいましょうか?)

6月20日~7月5日頃がO.H/O.T系の見頃となります。

酷暑期用高性種については、6月25日以降となるのではないかと思います。

*『新潟セレクションリリープロジェクト/新潟県花卉振興協議会』が設置した、隔離試験栽培/簡易パイプハウス栽培の開花は、7月10日~7月末くらいになるのではないかと思います。(何分初年度で、何時咲くのかよく分からない…。)

ここでの試験栽培から得られる情報の重要度は(酷暑期用品種開発)、当初試験栽培とは別の意味でさらに貴重なものとなるのではないかと考えます。切花農家の皆様にとっては最もお忙しい時期になろうかと存じますが、『向こう10年~15年、飯を喰う為の品種』を、ご自身で確認していただけたらと考えています。(一つだけではないはずですし…。)

皆様、覚えていますか? パシフィックオーシャンが試作番号で隔離栽培試験されていたのは、何年前だと思いますか?

それが今やっと出てくるのです。

よろしくお願い致します。

15年産フランス産については、18/20サイズ基準300EURO以下で仕入れられる品種がますます減少したものの、切花生産地各地の各々の作型に合わせた品種を、ご紹介し易くなってきました。

14年産とはまるで状況が違います。

「ただの新品種です！」ではなくなってきました。

「こういう風に使ってみたら？」と言える品種が増えてきています。

「コンディション別使用方法」の説明よりは、「品種特性別の導入推奨作型」の説明の方が伝わりやすいですからね!

やっとです。(ほぼ10年~15年振りだなあ~ずいぶん待たされました…。)

＊ ＊ ｶﾞﾗﾝｶについて

VOFTYS/TYS、養成球については、ほぼ予定球数に到達しました。在庫は少なめとなっております。

15年産開花球の当社取扱い分につきましては、この2軒の生産会社によって生産された球根のみで、ほぼ需要を満たせるのではないかと考えております。(この2軒の生産は守りたい。)

VOF/TYSが、最後にティッシュカチャーをかけたのが2007/2008年。

(1992年、その後不明期間があり、2002/2003年に投入されている。その当時ティッシュをかけたのは、ペニンギス社、その後V.Z社が引き継いだ。)

TYSが最後にティッシュカチャーをかけたのが2003/2004年と聞いています。

(このロットは1992年にｸﾞﾗｽﾊﾞﾙｶｰ社/ワｰﾙﾄﾞﾌﾗﾜｰ社、1998年にﾎｯﾌﾟﾏﾝ社によりティッシュが投入されている。)

ティッシュカチャーをかけるサイクルは、品種ごとに様々で、長い品種になると15～20年も原母球をティッシュによる更新をしないケースがあるそうです。そういう品種は強いのでしょうか。逆に、当然そのまま消えていく品種も…。

ちなみに、ｼﾊﾞﾘｱのケースでは、育種会社ﾊﾞﾙで最後にティッシュをかけたのは、12年前だったそうです。(2003年…。ｼﾊﾞﾘｱVOFでも2010年以前だったはず。)

さて、それではその他の品種は、どの様に管理されていたのか？考えた事ありますか？

Plamv時代を迎え、どのように考え方を変えていかなければならないのでしょうか？

この影響は、どんな形で、どんな事が起きようとしているのでしょうか？(例えば生産品種の移ろい…。)

ｶﾞﾗﾝｶを生産する両社における原母球品種管理/品質維持の精度が問われています。(彼らにかかっている。その手法はティッシュだけではない。)

私が考えるもう一つの大きな問題は、養成球消費球数：開花球消費球数(N.Z産/N.L産/F.R産)のバランスです。

＊養成球需要が減れば、開花球生産数も当然減少しますからね。

「日本向けの品種」の「球根生産を継続してもらう。」

「日本向けの品種」の「育成開発をしてもらう。」

このﾀｲﾌﾟの仕事…いよいよ面白くなってきました。やりがいがあります。

ｶﾞﾗﾝｶは減って、丁度良いのでしょうか。

本来ｶﾞﾗﾝｶは、特別商材という立ち位置だと思いますからね…。

これから以降、日本向けの品種を育てて行く為には、生産継続して頂く為には、1970年代/80年代の国産球流通時代の考え方をもう一度再現する事が最も近道だと考えています。(何か…物流対策と似ていますよね！昔どうしてたかなあ？)

当時の日本では、今以上に行政/民間ﾊﾞﾙでの百合育種が盛んに行われていました。

それらの品種を育て上げ、流通に乗せた手法を、今度は外国の育種会社/球根農家と共に実践するだけです。

この仕事は面白いと思いますよ！

よろしくお願ひ致します。

ご不明な点等、お問い合わせください。



以上 森山 隆